

科目名	経済学（ミクロ）	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	濱田 弘潤		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-01-A-1-110003	経営情報学部A：健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること			
授業の目的	<p>この授業では、ミクロとマクロに二分される近代経済学の中で、ミクロ経済学について最も基礎的な考え方を講義する。ミクロ経済学の入門を学ぶことを通じて、現実の経済問題を正しく捉え、考えるための最も基礎的な視点を養うことを目的とする。</p> <p>ディプロマポリシーとの関連で言えば、経済学の理解を通じて仕事の仕組みを系統的に考え、仕事や生活に活用できることを目標としている。また経済学を学ぶことは、グローバルな課題に批判的な問題意識と建設的な眼差しを持って向き合う実践的な態度の獲得に繋がる。グローバル化の進む国際社会の中で、個別具体的問題への認識を深める国際教養及び研究手法を、経済学の学習を通じて体得することを目指す。</p> <p>ミクロ経済学を学ぶに当たって、最も基本的な経済用語や考え方、経済学で用いられる簡単な数学を説明し、個々の経済主体の行動原理について説明を行う。特に消費者理論では、消費者の予算制約下の効用最大化行動について、生産者理論では、生産者の生産技術の制約下での利潤最大化行動について学ぶ。また需要と供給の一致する市場均衡と市場均衡の資源配分の効率性について説明する。講義は、ミクロ経済学をこれまで学んだことのない初学者向けに行われる。</p>				
学修到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容とテキストの内容を完全に理解する。ミクロ経済学の考え方や図について、経済学のものごとの捉え方や経済問題、経済的な意味についてきちんと理解する。具体的には、消費者理論、生産者理論、市場均衡で用いられるミクロ経済学の基礎概念と考え方を理解する。 2. ミクロ経済学の問題を解くために最低限必要な基礎知識を修得し、ミクロ経済学の実際の演習問題の解き方を学ぶことの助けとする。 				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	ミクロ経済学について、ミクロ経済学の位置付け
第2回	ミクロ経済学と数学
第3回	需要と供給

第4回	価格弾力性
第5回	完全競争市場と市場均衡
第6回	効用と無差別曲線
第7回	限界代替率
第8回	予算制約と効用最大化
第9回	所得効果と代替効果
第10回	生産関数
第11回	生産量と費用
第12回	いろいろな費用の性質
第13回	利潤最大化

第14回	余剰分析の方法
第15回	市場均衡と余剰・まとめ
第16回	定期試験

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	1時間：事前にテキストを読んてくる。
【復習】時間・内容	1時間：テキスト章末の確認問題を解く。

成績評価	
評価基準・方法	成績評価の方法は、期末試験（8割）、出席による平常点（2割）とする。 期末試験に対するフィードバックの方法は、ポータルサイトを通じて試験の解答例を掲示し、全体の評価について講評を加える。
フィードバック方法	期末試験の模範解答を提示し、講評を発表する。

アクティブラーニング	
実施の有無	×
実施内容	
教科書/参考書	教科書：神戸伸輔・寶多康弘・濱田弘潤 『ミクロ経済学をつかむ』（2006年）有斐閣 参考文献：西村和雄 『現代経済学入門 ミクロ経済学 第2版』（2001年）岩波書店 西村和雄 『ミクロ経済学入門 第2版』（1995年）岩波書店 武隈慎一 『ミクロ経済学 増補版』（1999年）新世社
受講上の留意点等	受講者に必要な要件は、講義を通じて真剣に学ぶ積極的な学習意欲である。 また講義内容の復習を行うこと、それ以外は特に受講に必要な要件はない。 講義を中心に進めるので、テキストの予習・復習を行うこと。
JABEE	